

シユ・(ス)

ぬし・おも



燭台しよくだいの上うえにともる灯火とうかの炎ほのおの形かたち。金文きんぶんの字形じけいは炎ほのおだけの

形かたちであるが、のちに下したに燭台しよくだいの形かたちがつけ加くわえられた。古こ

代だいの人ひとは火ひを神聖しんせいなものと考かんがえ、火ひを扱あつかう人ひとは家いえや氏族しぞく

の中心ちゅうしんの人ひとであり、主しゅは「主人しゅじん、あるじ、おもに、おも」

の意味いみとなった。